

南隅2町の広報発行 200号を記念して特別に出演していただいた南の星座メンバーをご紹介します！

<p>肝属郡医師会立病院 <b>堀ノ内 誠</b></p> <p>堀ノ内 新人看護師</p> <p>もの忘れ外来の新人看護師。里美と正二のオンライン面会も担当しているが、里美の様子がおかしいと感じている。できるだけ正二の元気な姿を見せようと日々奮闘する。</p>	<p>肝属郡医師会立病院 <b>桜木 希</b></p> <p>もの忘れ外来の今隈 医師</p> <p>医師会立病院でもの忘れ外来の診察や治療を行っている今隈先生。里美ばあさんに人と接する機会を増やすように提案し近所で開催予定の演奏会を案内する。</p>	<p>南大隅町社会福祉協議会 <b>富田 義和</b></p> <p>民生委員のとんたさん</p> <p>頼れる地域の民生委員で地域内の方ならほとんど頭に入っている。大竹野店長から相談を受け里美宅を訪れるが様子がおかしい…</p>	<p>肝属郡医師会立病院 <b>田淵 敦也</b></p> <p>さとみばあちゃんのひとり娘 あつ子</p> <p>里美ばあさんのひとり娘で、現在は東京に一人暮らし。実家にはたまに電話するが、母の「大丈夫」を信じてあまり帰らないため変化に気付かず。</p>
---	---	---	--

<p>錦江町地域包括支援センター <b>麥生田 才子</b></p> <p>地域包括支援センターのむぎうださん</p> <p>見た目はすこし派手だが認知症の当事者やその家族に寄り添い相談を受ける包括職員。アツ子と電話で口論になるが…</p>	<p>南大隅町社会福祉協議会 <b>大竹野 佑介</b></p> <p>大竹野商店 店長</p> <p>地域密着商店の店長。里美ばあさんのおかしな行動に気が付くがどう対応してよいのか分からない。アツ子とは小中学校の同級生。</p>	<p>老健みなみかぜ <b>橋口 正二</b></p> <p>しょうじ 正二じいちゃん</p> <p>9月から入院中</p> <p>穏やかで働き者の正二じいさんが9月から医師会立病院に入院中。里美を心配してオンライン面会を試みるが。</p>	<p>南大隅町地域包括支援センター <b>畦地 里美</b></p> <p>里美 ばあちゃん</p> <p>歌うこと、踊ることが大好きなパワフルおばあちゃん。最愛の夫、正二じいさんと暮らしていたが、夫が入院してからあまり元気がない…。少し様子も変です。</p>
--	---	--	--

ばゴミ出しの日を忘れてしまいました。家の中はゴミであふれ家族や近所の人から注意されます。しかし里美ばあさんは怒られる理由が分からず、人に会えば記憶にないことで怒られると思ってしまう。自分に置き換えて考えてください。記憶にないことでいつも注意されるとしたら怒らないでいられますか。この繰り返して自信を失い、人に会いたくないと思うようになり家にこもる。さらに認知症が進むといった悪循環に陥ります。さて、なにが問題だったのでしょうか」と畦地さん。

小学校での公演ではここでクイズが入ります。なぜ里美ばあさんは怒ったのか考えてもらおう時間です。どちらも悪くないがクイズの答え。ポイントは言い方やタイミングと続けます。「前もって言う」と忘れるからゴミ収集日の朝に電話しよう。聞いてないと言ったら、私が言い忘れてたからもう一回言うねと答えよう。相手の立場に立つ意識とちょっとした対応の違いで結果は大きく変わりますから。劇はきつかけと入口で「もしかしたら」と日常を振り返ってもらい少しでも早めの相談につながることを望んでいます。

「前半は里美ばあさんのもの忘れが原因で家族に注意を受けるシーンが使われます。認知症になると怒りやすくなり、家に引きこもりがちという印象を持つ人も少なくありません。果たしてそうでしょうか。例えば

パジャマに色違いの靴下、おしゃべり好きで元気いっぱい里美ばあさんを演じるのは南大隅町地域包括支援センターの畦地里美さん。鹿児島弁とオーバーな演技で会場を沸かせます。南の星座の劇構成は認知症の里美ばあさんが起こすトラブルに家族や近所の人たちが巻き込まれるといったストーリーが定番。

南大隅町地域包括支援センター  
**畦地 里美** 介護支援専門員

あぜち・さとみ ▶ 1960年南大隅町生まれ。平成13年5月から南大隅町社会福祉協議会に勤務し、平成25年4月に南大隅町地域包括支援センターへ出向。介護支援専門員として認知症ケアに取り組んでいる。主演の里美ばあさん役。

